

## 福祉避難所の運営 ゲーム形式で学ぶ

豊橋で140人参加

ゲームを通じて、災害時に避難する障害者について考える催しが二十八日、豊

橋市障害者福祉会館さくらピア（同市東新町）で開かれ、会館利用者やその家族、地域住民ら約百四十人が防災への理解を深めた。

さくらピアは災害時に障害者や高齢者を受け入れる「福祉避難所」に指定されている。また、障害者が主体的に防災に取り組めるよう、障害者に特化した避難訓練や講演会などを毎年実施し、パンフレットやラジオドラマも作っている。

この日は非常食の配り方や緊急時の助けの呼び方をゲーム形式で学んだ。非常食を配る際には、自閉症の人にサポーターが付いたり、耳の不自由な人に要約筆記でアレルギ―物質を知らせたりした。大声コンテ

ストでは「助けてー」と叫んで、周囲に対して自分が困っていることを伝える練習をした。

本田栄子事務長は「障害者と健常者が半々くらい参加してくれた。お互いに協力して災害を乗り越えられるよう、日頃から連携することが大切」と強調した。参加した天伯小五年の糟谷千夏さん（こ）は「聴覚障害者の人が困らないように、非常食の数を紙に書いて教えた。私も役に立てた」と笑顔で話した。



介助者に付き添われながら非常食を袋に詰める参加者（左）＝豊橋市東新町のさくらピアで

# 中日新聞

## 令和元年 9 月 30 日(月)